

特産農産物の生産奨励で遊休農地を解消

(奈良県・黒滝村農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

- 奈良県南部の吉野川(紀の川)支流である丹生川の源流部に位置し、河川周辺の僅かな平地や山麓斜面に民家や農地が点在して集落を形成している典型的な溪谷型山村。山林が村の面積の約97%を占め、耕地面積は0.48%の23ha(うち水田4ha、畑19ha)である。
- 令和2年の国勢調査人口は623人であり、高齢化率も49.4%と高い数値を示しており、担い手の不足、遊休農地の増加が懸念される。



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

○農地利用対策として、こんにゃく芋の生産奨励を行い、村内事業所での買い上げと加工販売ルートを確認し、こんにゃく種芋の購入補助事業を平成17年度から展開。令和7年度は村内生産者24名129kgの購入を補助している。遊休農地の解消と生産者の所得向上に努めている。



3 活動(取組と工夫)の結果

○こんにゃく芋の生産が浸透し、加工販売の好調も手伝い「黒滝こんにゃく」のブランド化に貢献している。